

		本数	額面	損失
合計	令和7年7月末	75本	126億円	35億円
	令和7年1月末	78本	129億円	26億円
満期まで5年未満	令和7年7月末	4本	4億円	81万円
	令和7年1月末	6本	6億円	180万円
満期まで5-9年	令和7年7月末	8本	8億円	4500万円
	令和7年1月末	6本	6億円	3000万円
満期まで10-19年	令和7年7月末	28本	42億円	7億2100万円
	令和7年1月末	31本	45億円	5億6000万円
満期まで20-29年	令和7年7月末	32本	59億円	21億2000万円
	令和7年1月末	32本	59億円	16億円
満期まで30-39年	令和7年7月末	3本	13億円	6億円
	令和7年1月末	3本	13億円	4億4000万円

河合かつぺい議員

基金含み損失は35億円
説明責任果たせ

〈愛西市議会9月定例会一般質問〉

愛西市議会は9月4日と5日に一般質問を行いました。

日本共産党愛西市議団の河合かつぺい議員の一般質問の内容を紹介します。

損失26億円から35億円に拡大

河合かつぺい議員が、基金の損失の

状況と7月末の基金の状況を確認しました。

会計室課長補佐は、「合計は債券が75本、額面126億円、含み損は約35億円です。令和7年7月末時点の基金総額は約171億円で内訳は債券 約125億円、普通預金 約27億円、

定期預金 約19億円です。」と答弁しました。

表のとおり、半年で9億円も損失が拡大し、いよいよ満期まで保有しなければならぬ状況となった。10年たっても目標とする債券運用50%の達成はむずかしい状況です。

含み損の説明責任をはたせ

かつぺい議員は、「ホームページの検証の概要では説明不足だ。基金の運用について「流動性の確保の視点を軽視」「市長が債券売買の決裁をしていない」という意思決定の不備

基金の債券運用の含み損は重大な問題です。報告を受けていなかったとはいえ最高責任者の市長が市民に、職員に説明すべきです。

市長は、「自ら説明していない」と答弁しました。

この事実の。市民、職員への説明責任を果たしたのかを質問しました。

熱中症対策として冷凍庫設置を

かつぺい議員は、児童生徒の熱中症対策としての冷凍庫を設置を求めました。

教育部長は、「熱中症対策として、リュック等での通学、日傘や冷却グッズ等の使用を認めている。持参している水筒のお茶や水がなくなった場合は、職員室で保管している保存水を水筒に補充している。現時点において、冷凍庫の設置は考えていない」と答弁しました。

小学校体育館もエアコン設置を

かつぺい議員は、中学校体育館のエアコン設置は好評を得ている。小学校体育館へ設置を行うことを求めました。

教育部長は、中学校では、体育の授業や学校行事のほか、部活動でも利用するため、小学校と比較して多く利用され、熱中症対策が必要と判断した。現時点において、小学校に整備する考えはない」と答弁しました。

かつぺい議員は、永和中の体育館は雨漏りがひどくて、部活や授業で永和小の体育館を利用している。避難所になる可能性も高いので永和小の体育館を優先的に整備することを求める。

教育部長は、小学校のエアコン整備は、一括した整備改革ではなく、個別の関日計画の検討も行うと答弁しました。